

特別支援学校の
改修事例
2015



幼児用、自動洗浄などのさまざまな形状の小便器が並ぶ小学部トイレ。壁はメラミン不燃化粧板を使用。

あらゆる器具を揃えたトイレは自立のための学習スペース。大阪府では知的障がい支援学校の児童生徒増加と、卒業後の社会的自立に対応するため、4地域で新校を整備。そのうちの二つをレポートします。



通学バスが停まる場所のすぐ目の前にもトイレを設置。

01: 大阪府立西浦支援学校

(大阪府羽曳野市)



レバー付きの幼児用腰掛式大便器。長いレバーは小さな力でも流す練習が可能。



幼児用便座付き大便器を設置した小学部低学年用トイレ。ブースはカーテンでゆるやかに仕切り、介助のしやすさとプライバシーに配慮。

大便器は洋式化、床は乾式
安心・安全面に特に配慮

大阪府立西浦支援学校は、統合によって閉校になった高校の施設を活用して整備されました。築約50年経っていた校舎は改修して中学部と高等部に。既存の校舎では、蹴上げなどサイズが合わないため、小学部は同じ敷地内に増築されました。

府教育委員会の内藤孝彦主任指導主事は、今回のトイレ整備にあたって、次のような方針を取ったと言います。

「和式便器がほとんどでしたので、家庭に合わせ洋式化を進めました。床は、掃除がしやすく感染症対策にも効果的な乾式清掃の床に。何より安心・安全面に特に配慮しました。

また、車いす利用の方々にも対応するため、基本的に横開きで軽量のドアを採用するなど、細心の注意を払うようにしました」

トイレは子どもたちへの重要な生活指導の場

西浦支援学校の小学部は、教室から直接トイレに入れるよう



どのトイレにも大きな流しを設置。大切な歯磨き指導や、感染防止の手洗いに使用する。水栓金具もさまざま。



小学部の低学年用トイレの廊下側の入口は、左右の角を黄色の緩衝材でくるんで視認性と安全性に配慮している。



掃除用流しとシャワーは近くにあると、子どもの排せつ指導時に重宝する。壁はトイレと合わせ、浴室用メラミン不燃化粧板。



小学部中学年トイレ。軽度から重度まであらゆる子どもの障がいに対応するため、バーの位置もブースによって異なる。



小学部中学年トイレの温水洗浄便座付き大便器。ふたの開け閉め練習も。



小学部低学年トイレの中庭側入口。子どもたちの手が届かない高い位置に鍵がつけられている。

01: 大阪府立西浦支援学校

(大阪府羽曳野市)

特別支援学校の
改修事例
2015

なっています。

「トイレや洗面台は子どもたちにとって非常に大切な生活指導の場です。だから、教室からすぐに行けるようにしました。手を洗うにしても、『洗面台の前に立つ』『ハンカチを出す』といった一つひとつの動作を指導し、繰り返し教えます。社会に出たときに困らないよう、水栓金具や便器もいろんなタイプを用意して、どんな場面でも自立してトイレに行けるよう指導していきます」(内藤主任)

また、トイレのブースは一つひとつがゆったりとしたつくり。教員も一緒に入れるようにとの配慮からです。同校の西村誠三教頭は言います。

「支援学校で常に課題となっているのは、安全とプライバシー保護の両立の問題です。安全に見守るために、かつてはトイレにドアがなく、オープンな空間になっていました。今はプライバシー保護の観点から、スペースを広く取って、ドアをつけ、教員と一緒に入れるよう、少しずつ改善されてきています」

大便器とシャワー、洗面台等を一緒にしたブースも多く設置。子どもたちの汚れた衣類は



中学部の廊下。車いすにも対応できるように広々としており、トイレとの段差はない。



中学部の小便器の洗浄方式も自動洗浄からフラッシュバルブ式までさまざま。



中学部・高等部用の男子トイレ。洗面台の水栓金具は3種類。それぞれ先生から使い方が指導される。



小学部
低学年
トイレ

上下の出入口は教室に、左側は廊下につながっている。中に入ると、ゆるやかに男子と女子に分かれている。



既存校舎
高等部
女子トイレ

既存校舎
高等部
男子トイレ

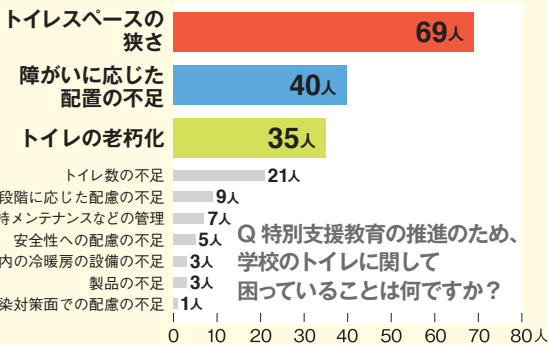
男子トイレは大便秘器ブースの両側に洗濯室とシャワースペース。女子トイレは教育的観点から和式便器も設置。



中学部・高等部用の女子トイレ。トイレ指導から手洗い指導までできるブース。右側にはシャワー室も併設。



中学部・高等部女子トイレ。扉はすべてスライド式。ブースの壁は天井まで立ち上げて。



特別支援教育の現場で最も困っているのはスペースの狭さ。介助が必要な子は多いため、広いスペースが必要となる。また、障がいに応じた配置が不足していると答えた人も多い。例えば、右側に障がいがある場合は、左利き用扉の設置などの配慮が望まれる(アンケート調査、P20を参照)。

「トイレは改良が重ねられていくものの、課題は残されている」と西村教頭は語ります。

「支援学校では子どもたちが個室ブースにこもってしまうこともあります。外からも教員が開けやすいドアの鍵の開発が望まれます。もう一つ、小・中学校

すぐに洗えますし、子どもたちが再び便意を催したときの利用にも対応しています。必要な器具がすべて近くにあることで、安全への配慮ができ、トイレ指導もやりやすくなっています。

あらゆる障がいを想定し誰にもやさしい施設に

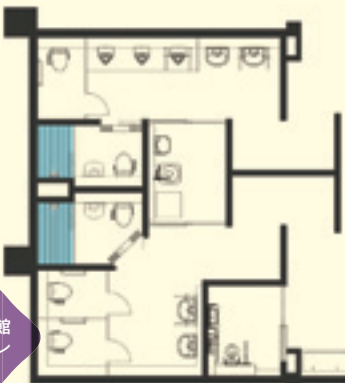
体育館トイレの中央部。排せつを練習中の子どもも少なくないため、掃除用流し、汚物流し、洗濯機は、支援学校のトイレには欠かせない。



体育館の多機能トイレ。大便器まわりの棚の高さが均一で、車いす使用時の圧迫感を軽減。



体育館のトイレ出入口。広々としており、行事の際、車いすでもゆったり通れる。



体育館
トイレ

掃除用流し、汚物流し、洗濯機のあるブースがトイレの中央に。男子も女子も共同で使えるようになっている。

01: 大阪府立西浦支援学校

(大阪府羽曳野市)

特別支援学校の
改修事例
2015



体育館の男子トイレ。洗面台と小便器を仕切って、プライバシーに配慮。水栓金具も2タイプ。



大便器と手洗い、シャワーが一体化になったブース。排せつ指導時には、ブース内で一通りの対応が可能。

DATA

- 竣工年月 / 2015年2月
- 所在地 / 大阪府羽曳野市 西浦2丁目
- 児童生徒数 / 291名(5月現在)
- 施主 / 大阪府教育委員会
- 設計 / 浦辺設計・新日本設備計画設計共同企業体
- 施工 / NIPPO・日比谷総合設備(株)大阪支店

等も含めて学校トイレの課題に
なっているのは、性同一性障
がいの子どもたちへの対応です。
例えば、男子でこの障がいがあ
る子どもは、男子トイレに入る
のをためらいます。かといって、
女子トイレに入ること現実的
には厳しい。現状は、女性の先
生がつきそって職員用トイレを
使わせたり、多機能トイレで対
応しています。ただし、子ども
たちのトイレではないトイレを
使うことは、快適とはいえませ
ん。性同一性障がいであっても、
誰にも言えず、一人で悩んでい
る子どももいるでしょう。男女別
のトイレの横に『誰もが使える共用
トイレ』の設置が求められてい
るのではないのでしょうか」
全児童生徒の快適な学校トイレ
のために、今、さらなる改善
が望まれているのです。